

## 第三者評価結果報告書

### ①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

### ②施設・事業所情報

名称：ララランド大倉山	種別：認可保育所
代表者氏名：坂本 清美	定員（利用人数）： 50名（52名）
所在地：〒222-0037 横浜市港北区大倉山1-10-12	
TEL：045-642-7623	
ホームページ： <a href="https://la-la-land.co.jp/">https://la-la-land.co.jp/</a>	

### 【施設・事業所の概要】

開設年月日	2020年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）	株式会社LaLaLand		
職員数	常勤職員： 15名	非常勤職員：	10名
専門職員	保育士 17名	看護師	1名
	社会福祉士 1名	調理師	3名
施設・設備 の概要	(居室数)	(設備等)	
	保育室6室、厨房1室、事務室1室、医務室1室、職員休憩室1室	3階建て、エレベーター有り	

ララランド大倉山は、東急東横線大倉山から3分ほど坂道を登った住宅地の中にあります。園舎は鉄骨筋3階建てで、保育室の窓は大きくて見晴らしがよく、晴れた日には富士山を臨むことができます。日当たりのよい園庭があり、夏には子どもたちが水遊びを楽しんでいます。園は、2020年（令和2年）4月に、株式会社LaLaLandによって設立されました。法人は、他に横浜市内で認可保育園を5園、逗子市で企業主導型保育園1園運営しています。定員は50人、開園時間は、平日（月曜日～金曜日）は、7時から20時、土曜日は7時30分から18時30分です。

### ③理念・基本方針

#### 保育理念

- ・自分の未来を創造できる子どもに

#### 保育目標

1. 安心感の中で穏やかで安定した子ども
2. いつも自分を精一杯表現しようとする子ども
3. 仲間、家族を大切にし、一緒に生活を創り出すことを喜ぶ子ども
4. 違いを認め合い楽しめる子ども
5. より共感する力を持った思いやりのある子ども

#### ④施設・事業所の特徴的な取組

3・4・5歳児は、農業体験を年12回ほど行っています。農業体験では田植えや脱穀、小麦粉でのうどんづくりなど、豊かな経験をすることができます。また、外国人の先生が2名常駐しており、普段の生活の中で英語に触れる機会を作っています。自然と日本語だけでなく外国語に触れ楽しく過ごしているので園の雰囲気は明るいです。園では、月に2回リトミック講師に来てもらい、1歳児から5歳児までリトミックの時間を設けています。そのためか、子どもたちはリズム遊びが好きです。5歳児は、積極的に園のお手伝いを行ってくれていて雑巾がけや雑巾を干したり、給食当番なども行っています。他のクラスに台ふきんを配布したりする中で自然な交流をしています。食育では自分たちで育てた野菜を調理したり、箸の持ち方の練習なども行っています。

#### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年6月20日(契約日)～2023年1月26日(評価結果確定日)
受審回数(前回の受審時期)	1回

#### ⑥総評

##### ◆特長や今後期待される点

##### 【特長】

##### ・様々な体験を通して、子どもたちはお互いの違いを認め、のびのびと園生活を楽しんでいます

保育士は、クラスで話し合っそれぞれの子どもの発達段階や個性を把握して共有し、個々に合わせた対応をしています。保育士は、年齢に合わせたわかりやすい表現を用いて子どもに話しかけ、子どもの言葉や反応などから子どもの気持ちを汲み取り、子どもが言葉で自分の思いを表現できるように働きかけています。このような働きかけの結果、子どもたちは少しずつ言葉で思いを表現するように育っていて、0・1歳児でもたくさんおしゃべりすることができます。幼児になると、子どもの意見を聞いて散歩の行き先や活動内容を決めたり、子ども同士で話し合っ複数の候補の中から行事のテーマを決めたりしています。

季節の行事のほかに、幼児はバスを利用しての外出行事や月2回の農業体験などを実施し、子どもたちが体験を通して様々な学びを得られるようにしています。農業体験では、田植えや稲刈り、脱穀、芋ほりなどを行います。外国人の先生が常駐し、常に英語や外国の文化に触れることができる環境を整えていて、子どもたちは言葉や文化、習慣の違いを自然に受け入れています。また、4・5歳児は、当番活動で各クラスの雑巾を集めて干したり、台ふきんを配ったりしています。5歳児は、他のクラスに頼まれて買い物に出かけるなど、年長児としての自覚を持った活動もしています。このような様々な体験を通して、子どもたちはお互いの違いを認め、自分の思いを率直に言葉で表現し、園生活を楽しんでいます。

##### ・職員会議等で話し合い、安心・安全に保育ができるような環境づくりに取り組んでいます

毎月のクラス会議や職員会議、毎日の昼礼で子どもの様子について情報交換し、子どもの発達や成長に合わせた環境づくりに努めています。毎月、クラスで環境構成が子どもの姿に合っているかを検討して見直し、子どもが年齢や発達に応じた活動をし、安心して園生活を送れるようにしています。安全面、衛生面にも力を入れ、不審者対応や緊急時の対応、感染症対策などの園内研修を毎月、実施しています。毎週の安全点検や、事故とヒヤリハットの定義を明確にしてヒヤリハットの記載を推奨するなど、職員の意識づけを図っています。このような取り組みの結果、職員の意識が育っていて、保育士間でこまめに声を掛け合っ安全面での配慮をしたりしている様子を確認することができました。また、保護者の安全面での不安にもすぐに対応しています。

### 【今後に期待される点】

#### ・園と職員および職員間でのコミュニケーションを深め、保育の方向性を共有していくことが期待されます

開園してからの3年間、園長を中心として職員は、新しい園づくりに取り組んできました。クラス会議や職員会議で話し合いを重ねて取り組んできた結果、少しずつ園の基礎ができつつあります。ただし、園の自己評価などを基に保育内容が理念に沿っているか確認したり、それぞれの保育観のすり合わせをして目指す保育のあり方について話し合ったりするまでには至ってなく課題ととらえています。職員会議や園内研修の方法を工夫してコミュニケーションを深め、園と職員で理念を共有して、園が目指す保育の姿を作り上げていくことが期待されます。

#### ・地域との関係づくりに取り組まれていくことが期待されます

子どもたちは地域に散歩に出かけ、地域住民とあいさつや会話を交わしています。地域の商店に買い物に出かけることもあります。ただし、事業計画に地域との連携を掲げているものの、園として地域住民を行事に招待したり、地域の子育て家庭に向けて園のノウハウを提供したりすることはしていません。騒音など園が抱える課題解決のためにも地域の園への理解は不可欠です。コロナ禍という制約はありますが、地域の情報を収集して方法を工夫し、地域との関係づくりに取り組まれていくことが期待されます。

### ⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

毎日、忙しく過ごしてしまいがちなので、このような機会をいただいたことで自分の園の保育や運営の仕方を見なおすことができました。また、職員も自分の保育や子どもへの関わりを振り返ることができたり、話し合う時間を作ることができました。話し合いをすることで自分以外の保育士の保育感を改めて聞くことができたので、今後の保育の質の向上に生かしていきたいと思います。

最後になりましたが、お忙しい中、アンケートにご協力いただきました保護者の皆様に感謝申し上げます。

ララランド大倉山

園長 坂本 清美

### ⑧第三者評価結果

別紙2のとおり